

会報

# 山口七夕会

令和6年（2024年）6月

第54号

発行：会報編集委員会／事務局

題字/書・原野和夫氏



< 目次 >

秋草会長挨拶	3
山口市への提言を行いました	4
令和5年度山口七夕会「春の交流会」の報告	8
春の花見ウォーキング 2024(谷中七福神巡り)	10
山口七夕会親睦ゴルフ「第9回八木重二郎杯」	12
梅田圭良さんを偲んで	13
山口七夕会ふるさと山口本部 酎祭「講演会・交流会」	14
【酎祭講師の寄稿】「山口のお酒は 旨い魚と小噺で呑む」	15
「冬の徳佐を楽しむ会」	18
【リレーコラム】～地酒「わかむすめ」を育てる～	20
【ふるさと大使より】山口七夕会「こども会員」から次世代会員育成の試み	21
神田京子大独演会 金子みすゞ伝 明るい方へ	22
ストリートピアノとのコラボイベント第2回目	23
オーセンティック Authentic な山口とわたし	24
新入会員の皆さん／各種イベント等のお知らせ	25
<山口市役所より>山口市ふるさと産品販売イベントのご案内	26
投稿募集／公開会員名簿への掲載承諾のお願い／メールアドレス登録のお願い	27
事務局からのご案内／編集後記	28

※会報は山口七夕会のHPにもアップします。カラー版をHPでお楽しみください。

## 会長挨拶

### 力強い地方都市山口市



コロナもすっかり後退し、人々の生活に「普段」が戻ってきました。それを見計らった様にニューヨークタイムズ誌に「今年訪れるべき世界の都市の第3位」として山口市が取上げられました。山口市が選ばれたことを心から嬉しく思います。山口市を首都圏でも知ってもらうことを目指して七夕会が企画され、東京都世田谷区の三軒茶屋で山口市にまつわる商品の販売が始まって25年。こうした活動を通じた山口市の認識度向上の試みが、NYT誌の記事に繋がったのかも知れません。山口市でも市内の大内文化に係る場所を改修し紹介する動きを更に充実させて頂きたいと思えます。大内文化が栄えた山口と京都や他の地方・都市との関係にも目を向け、情報を集めて頂きたいと思えます。

また、今年5月3日から山口線にSLが戻ってきました。最初は「SLやまぐち号」でスタートしたのに機関車が故障・修理となり、その間を「DLやまぐち号（ディーゼル機関車牽引）」で凌いでいましたが、やっと元の姿に戻りました。車窓から山口市を紹介するととても良い役割を担ってくれるものと期待しています。

決して大都市でないところが山口市の魅力です。さらに大内文化が花開き、国宝五重塔を抱える山口市は底力を感じます。今年3月下旬に山口に行きましたが、そこに「しぶとい」山口市を発見しました。商店街も所謂シャッター街ではなく「しぶとく」昔の名前で営業している店、新経営者に引継がれ営業している店の姿が見られました。かつては工業都市として賑わった県内の他の街が、シャッター街になっていると聞くにつけ、山口市の頼もしさを感じた次第です。市町村合併で山口市の規模・範囲が拡大し、周辺から旧山口市に人が集まって来ることもあるのですが、マンションの増加にもビックリしました。新しい地方都市の在り方を見た様な気持ちがありました。

同時に七夕会がこうしても続いているのも、会員皆さんによる各種のイベントの実行・参加に支えられている結果だと思えます。会則にもあるように「ふるさと山口の発展に寄与する」という七夕会の目標に向け、私ども会員相互の交流をお願いします。その為には総会、交流会、ウォーキング会だけでなく、七夕会幹事の皆さんが若い人たちの心に訴える企画をどんどん考え実行して頂くことが大切だと思えます。新しい通信ネットワークを通じて若い人たちに七夕会の企画へ参加を呼び掛けています。若い人々が七夕会をさらに盛り上げて下さることを期待しています。新しい形での七夕会の運営をお願いする次第です。

最後に七夕会の機関紙「会報」に皆様からのご寄稿をお願いしたいと思います。特に「ふるさと山口市」に関する現在・過去の情報の収集・拡大を期待しています。「ふるさと山口市の発展に寄与する」為に今後とも七夕会を通じて努力して行きたく、会員皆様のご協力とご支援を賜りたいと思えます。

令和6年（2024年）6月

山口七夕会 会長 秋草史幸



## 山口市への提言を行いました

渡邊 史信（会員No.364）

本年3月19日(火)に秋草会長、申神ふるさと山口本部長と共に、伊藤市長・田中副市長・吉村総合政策部長、岡村交流創造部長・中村商工振興部長（当時）及び入江議長・富田副議長を訪問しました。その折、七夕会として本年初のNYT誌により山口市が観光の最有力対象となったことに関し意見交換を行い、以下の提言書を担当である交流創造部長と商工振興部長に手交しました。

会員の皆様に本提言をそのままご紹介し内容を共有し、政官民産学の全ての分野でそれぞれが主体的に考え行動することで、山口市の発展につながれば幸いです。



(2024年1月10日 JPN 時間早朝発表)

\*\*\*\*\*

伊藤和貴山口市長殿

2024年3月19日  
山口七夕会会長 秋草史幸  
山口七夕会顧問 渡邊史信  
山口七夕会ふるさと山口本部 本部長 申神正子

平素は本会の活動に関し、格別のご高配を賜り衷心より感謝申し上げます。

本年年初のNYT誌の記事における「今年訪れるべき世界の都市の第3位」という山口市の取上げにより、山口市は現在注目の的であり、又色々な意味で盛り上がっている状態で、山口市におかれましても様々な対応を検討されている事と思えます。

当会と致しましても、本件は大変喜ばしいが、一方でオーバーツーリズム対応については心配もしております。

つきましては、以下提言をまとめましたので、今後の市政施策の参考にしていただけますと幸いです。尚必要でしたら当会顧問の渡邊が本件対応致しますので、ご質問を含め何なりとお申し付けください。

### 上記 NYT 記事に関する考察

本件記事に関連して、大きく以下の3点について考察を行う。尚、行政上の所管等により国・県・市・その他団体機関等との間の調整が必要な点も多々あるかと思うが、「当事者たる市」としてリー

ダーシップを発揮してもらいたい。

[1] 短期的（ここ1-2年）の観光客の増加対策：以下の提言は対個人又は少数グループの外国人観光客を対象とする（除く国内・団体国内外観光客）。

(1) 上記 NYT の記事の対象地域は旧中心部及び湯田温泉地区に焦点を当てたものである。従い急務は先ずこれらの地域をモデル地区として、山口市が観光行政上何ができるか、それらをどう・どこまで・いつまでに展開するか、その予算と資源（特に人材）はどうか等が総合的に検討されるべきであろう。

(2) 山口市として、山口市民として、①「観光客の増減に関係なく又左右されない今後も守るべきものは何か」、②「時代に合わせて変容させてもいいものは何か」をしっかりと見据えて、①は守るべき体制を、②は対処方法を至急立案し対応すべきであろう。

(3) 一方「観光客が少ないB面都市」ということが NYT の記事の中で山口市の「売り」になっている。即ち観光客が多くなるとその魅力（人が少ない）が逡減されるわけで、その魅力逡減分をどう補完的な満足につなげていけるか？リピーターになってもらえるか？行くべき所と更に喧伝してもらえるか？という視点が大事になってくる。「観光客を増やしたいが、増えると魅力的ではなくなる」という図式を「観光客が増えても魅力的である」という図式に如何に転換できるかである。

(4) 以下の5点は今回の記事とは関係なく、観光客を期待する以上基本である。

- ① 外国語併記による標識等を統一し、数を増やす
- ② 外国語表記のHP等の発信
- ③ 外国語表記での地図・パンフレット・観光手引きの充実
- ④ 対応する人材と機会（場所等）の充実
- ⑤ 維新や大内文化・五重塔の広報は当然として、総合的な観点での魅力発信が大事。
  - ・歴史（大内以前・大内・毛利・維新）
  - ・景観と風水思想の紹介・宗教的文化（神社・仏閣・サビエル教会・菜香亭）
  - ・文芸（山頭火・中也・独歩等々）
  - ・美術工芸（雪舟・大内塗・陶芸）
  - ・伝統行事（祇園祭り・七夕提灯祭り・白鷺の舞・温泉祭り等々）
  - ・飲食・ショッピングと中心商店街
  - ・自然景観（錦鶏の滝・一の坂川・榎野川・鳳翫山・鴻野峰・姫山・長門峡等々）

これらはいずれにせよ充実すべきであり、又定常的更新が重要である。

⑥ 特に以下のサイトの活用と内容の今後の充実は有用であろう。

「山口市観光情報サイト 西の京山口 /[Yamaguchi City Tourism Information Website Nishinokyo Yamaguchi \(yamaguchi-city.jp\)](http://Yamaguchi City Tourism Information Website Nishinokyo Yamaguchi (yamaguchi-city.jp))」は英語・スペイン語・韓国語・中国語（簡体字・繁体字）と充実しており、一般的なニーズには対応できるであろう。

(5) 観光先進地である萩・長崎・奈良・伊勢等を参考にすることも重要である。

(6) 観光客誘致による観光客数の増大は負の効果もある事を覚悟せねばならない

- ・オーバーツーリズムによるインフラの脆弱さの露呈
- ・治安の悪化又は不安
- ・交通事故や違法駐車

- ・ゴミやたばこのポイ捨てによる美観・環境の悪化及び火事への不安
- ・誤解や理解不足によるトラブル等

これらについては事前の対策強化と住民への啓蒙が重要である。

(7) 誰もが誇りに思い口にする瑠璃光寺五重塔だが、令和の大修理のCFへは第1期、第2期共に目標2000万円に対して、寄付最終応募高はそれぞれ632万円、601万円と低調で、内山口市民からの応募数はそれぞれわずか127人、101人である。居住地別で言えばダントツの数であるが、この程度が市民の意識・認識・貢献意欲の実態である。(数字は実行委員会報告書より)。

又瑠璃光寺及び五重塔の前庭は市の管轄と聞いている。公園入口にて山口市又は瑠璃光寺に拝観料を取る事を認めたらどうか。令和の大改修期間のみの限定措置でもよいが、いずれ再度大改修が必要となる事は必定である。勿論証明書による市民及び学童の無料は考慮すべきと考える。京都や奈良の多くの神社仏閣は拝観料を徴収しており、勿論山口市内の全神社仏閣に同様の措置を認めなければいけない。(常栄寺は拝観料を徴収している)本収入は山口市又は瑠璃光寺等において特別会計として別管理し、数十年に1回の大改修にのみ使用できるとしたらよい。

(8) 以下順不同にて思いつくままの気付きを記す。これらは「現地語を話せない自分が初めて海外の都市に一人である」という想像力が大事。

①アクセス：新山口又は山口宇部空港に着いてからの問題。

\*タクシーの絶対数が少ない・・・市中の流しも殆どなく、タクシー乗り場の周知や「山口TAXIアプリ」の外国語対応等の充実。

\*バス経路及び停留所及び観光スポットとの関係の分かりにくさ

- ・路線図の他、地図を使用した路線図により観光スポットとの関係を分かりやすく表示
- ・全ての路線と停留所にアルファベットと番号を付与

\*新山口及び山口宇部空港からの直通バスを再開：市内ホテルを巡回し山口駅までの直通バス(十分なスーツケース等の収納場所付)をのぞみ及び空港到着便に合わせて運航

\*各民間駐車場と観光スポットとの位置関係を駐車場内に表示

\*主だった駐車場にレンタサイクルの置き場設置

\*大型スーツケース等の一時預け場所・ロッカーを要所要所に設置

②バリアフリー化と車椅子対策：公共交通機関・街中及び建物内

③トイレ：絶対数及び西洋式トイレ及び車椅子対応・・・清掃経費もあるので有料化も検討

④外国語対応可能な店や窓口、病院・医院・ドラッグストア・コンビニ等表示

⑤特に欧米人はウォーキング・サイクリング・ハイキング・キャンプ等を好む傾向になる。市民と観光客両方に安全と快適さを保証するための、特にサイクリング専用ロード・休憩地(トイレ等完備)の設定は安全上も必須である。

⑥様々な参加型アクティビティのイベント情報の一元化・参加のしやすさ等を民間の団体と協力して構築

⑦県立山口博物館・県立美術館・県埋蔵文化センター・山口市歴史民俗資料会・クリスチャン記念館(旧サビエル資料館)・山口情報芸術センター・中原中也記念館・山口市菜香亭・十朋亭・県政資料館・山口ふるさと伝承総合センター・県文書館・県立図書館・市図書館等の県・市・官・民の垣根を取り払った有機的かつ計画的なキャンペーン・イベントの推進

⑧住民への啓蒙活動：生活空間への侵入対策・治安対策・基本的な外国語対応

⑨街の景観の維持向上：ゴミ箱、電線の地中化、車道・歩道・自転車道の分離整備・緑化

⑩様々な要望・困りごとへのOne Stopかつ外国語対応可能な窓口を市内に数か所設置

⑪ルール(特に交通ルール)・マナーを守る官民一体となった継続的住民啓蒙活動

- ⑫県庁15F展望台活用や亀山公園からの眺望による地形・風水や主要スポットの説明
- ⑬観光ガイドの登録制度と質の向上教育の実施：ボランティアを基本
- ⑭「やまぐち歴史・文化・自然検定」（商工会議所主催）の普及や「大内氏がわかる本3冊」の普及と活用・・・山口市のふるさと納税返礼品に追加
- ⑮のぞみ新山口停車との接続（10－15分）の利便性を考えた山口線ダイヤ編成
- ⑯学校での異文化への対応・多様性への理解を育む教育や取組
- ⑰「祇園祭」、「七夕提灯祭り」、「12月、山口市はクリスマス市になる」等イベントの事前キャンペーンの内外への発信
- ⑱レノファ山口のアウエー先試合において、アウエー先のレノファの応援参加者へのくじ等によるプレゼント（湯田温泉宿泊券等）・・・まずはレノファが勝つことが大事！！
- ⑲ふるさと納税への更なる返礼品充実により山口市への関心と認知度を上げる
- ⑳商店における支払いのデジタルマネー化・クレジットカード化の推進と普及

## [2.] 中長期的対策：市民生活の質の充実と向上を目指しつつ、「山口ブーム」を一過性でなく持続的に継続するための施策（次項[3]において議論）

- ① 市民と観光客両方に安全と快適さを保証するためのソフト・ハードの施策は必須である。
- ② 市民の外国語習得への施策（小中学校での英語教育の推進・外国語全般の民間語学教室受講者への補助金等）
- ③ 街の景観の維持向上・・・ゴミの処理、電線の地中化、車道・歩道・自転車道の分離整備（特にサイクリング専用ロード・休憩地（トイレ等完備）の設定）・緑化、特定の地域における無秩序な看板・幟等の設置ルール化（色・大きさ・設置場所等々）
- ④ バリアフリー化：公共交通機関・街中及び建物内、公共トイレの車椅子用個室等
- ⑤ 前項[1]及び本項の継続的見直しと対象地域の拡大：短期的な経済性から目標を決めるのではなく、中長期的な観点から、次世代にて花開き実を結ぶ息の長い施策があってもよい。

## [3] 本件に関する市民中心の諮問・対応委員会創設・・・2-3か月で短期的提言策定、その後中長期的観点からの政策提言策定を行う

目的：対策の立案と即時対応（予算充当）

- ① 会議は市長主宰
- ② メンバーはMAX10人
- ③ 会議及び答申は原則公開
- ④ 構成員案（原則山口市在住者）：
  - a 海外在住経験者や海外からの留学生
  - b 直近1-2年に山口市に国内外より移住してきた人
  - c 上記a又はbの要件を備えた学識経験者、
  - d 商工会議所・商店会
  - e 海外交流関係民間団体

以上



令和5年度山口七夕会「春の交流会」の報告

本部・幹事 岡崎 龍也（会員No.702）

春の交流会」は3月23日（土）11時から、飯田橋のインテリジェントロビー・ルコで開催され、30余名の出席がありました。講演会は、山口七夕会会長 秋草 史幸氏による「金融にまつわるこぼれ話」です。



秋草氏は旧三菱銀行（現三菱UFJ銀行）に入学、同行常務取締役、三菱UFJ証券社長を経て、現在三菱UFJ証券ホールディングス（株）名誉顧問。業務経験で得た

金融知識をもとに本日講演頂きました。

（講演の概要）

1. 銀行の役割

まず銀行という名称の由来について、江戸時代の「銀本位制」の影響で、お金（＝銀）を取扱う店（＝行）として「銀行」になったこと。

秋草氏の三菱銀行入学当時は16行存在した大手銀行が、現在4行に減少したこと。

銀行の融資・為替・決済等の業務の内容の説明に加え、銀行が預金を企業に融資す間接金融と直接投資の違いや、新NISA導入等で今後、金融知識がますます重要になることの説明。

2. 為替相場

外国為替市場での為替相場は、通貨相互の金利差から決定されている。現在、円安は景気に悪いかのような報道があるが、輸出に好影響を与え一部の企業業績には悪くない。一方で輸入物価が高くなることは良いことではない。したがって円安を単純に「良い・悪い」と断定するのは注意を要する。変化のスピード＝不連続な相場変動が一番の問題と言える。

3. 銀行資産の悪化

円安だから円金利を上げればよい、という程単純ではない。上場地銀の与信費用増加の日経記事があったが、コロナ対策特別融資の焦げ付きが主因。金利が上がれば更に事態は悪化する。

また、米国シリコンバレー銀行の倒産など海

外でも銀行経営の悪化がみられる。これは米国の金利が高いことが背景にある。

さらに中国では、不動産大手の「碧桂园」や「恒大集団」が既に香港ではデフォルトとされているのに、中国本土では貸出金への引当金積立で対応しているのは問題。'90年代のアジア通貨危機の時に不良債権を米銀に売却した経験から、引当金積立では本当に銀行の安全性を確保できるのか疑問。

このような環境下、中国では政府による株価維持政策が実施されている様だが、人為的な株価操作は、却って投資家の不信を招き相場の将来の不安定要素になる。

4. 投資の考え方

株価は本来配当の上昇に伴って高くなっていくもの。株価は将来の企業の収益性を反映しているとも言われるが、株式市場は必ずしも実態とは一致しない。一種の賭場の様になることもあり、注意が必要。企業の本当の価値は何かを考え、丹念にグラフを書いて分析する投資姿勢が大切。

また自社株買いは「株主還元」として日本で持て囃されているが、米国ではROEを上げる目的で行き過ぎた自社株買いがみられる。実質的には減資であり問題。アナリストが米国での「流行」を恰も進んだ考え方の様に、都合のよい理屈で説明する傾向は疑問。

新NISAの取扱いが開始され投資に注目が集まっている。NISAは配当、売買益が非課税となるが、一方で投資の注意点として

- ・特定口座と違い損益通算ができないこと
- ・買ったから売る時期（出口）を決めること
- ・長期投資が基本であり、相場に一喜一憂しないでじっと持つておくこと。

などがある。

さらにグロース株に人気があるが、大型安定株の投資を勧める。



また、米国株などの高配当銘柄の人気の高いが、米国では配当金に10%源泉課税がある。これを特定口座では外国税額控除申請で取戻せるが、NISAでは出来ないことにも注意が必要。

iDeCoは「年金」であることから60歳まで払い戻しできないことを注意しておくべき。

ご自身の株式投資やご趣味の鉄道ファンの話しを織り交ぜながら、「分散投資が基本であり、定期的に一定額を買っていくといった方法が結果的に儲かる。あれこれ目を奪われず、首尾一貫して続けていくのが一番の成功につながるのではないか」と結ばれました。

最後に質疑応答となりましたが、5名の方からマネーロンダリング、銀行の引当金について、日銀のマイナス金利解除、真の企業価値はどう見ればよいかなど多岐にわたる質問がありましたが、幅広く深い金融経済の見識から、的確で大変参考になるご回答をいただきました。

講演会後の懇親会は、女性創業応援やまぐち代表取締役社長 杉山敏美さんにご挨拶をいただきました。恒例の「じゃんけん大会」は、竹内酒造場「周防美人」1名、山口七夕会Tシャツ（顧問 山根和也さんバックプリントデザイン入り）、中村民芸社作成大内塗ストラップの豪華賞品で大いに盛り上がりました。そして、岡本浩次さんの謡「高砂」に会場は聞き入りました。

最後に、調布市議会議員 山根洋平さんにご挨拶いただき盛会裏に終了しました。



春の花見ウォーキング 2024 (谷中七福神巡り)

本部・副本部長 岡本 龍也 (会員No.670)  
本部 山根 和也 (会員No.39)

2024年の東京花見ウォーキングは3月23日(土)の春の交流会(飯田橋ルコ)の終了後に開催しました。最高齢94歳の岡本浩次さんを筆頭に春の交流会(参加者36名)の内、12名が参加してくれました。

恒例である靖国神社スタートでの千鳥ヶ淵コースではなく、『谷中七福神巡り』をしながらの花見コースとしました。春の交流会を終えたメンバーはJR飯田橋駅からJR田端駅まで電車で移動して、駅改札口をスタートに『谷中七福神巡り』で谷中ぎんざ、谷中霊園を抜け、上野の不忍池ゴールでウォーキングを楽しみました。図-1にあるように七つの神社を巡っていきます。正月であると図-2のような御朱印を貰えます。

JR田端駅改札口スタート⇒東覚寺(福寿寿)⇒青雲寺(恵比寿)⇒修性院(布袋尊)⇒長安寺(寿老人)⇒天王寺(毘沙門天)⇒護国院(大黒天)⇒不忍池弁天堂(弁財天)

青雲寺(恵比寿)の前で記念撮影しました。



【図-3 青雲寺(恵比寿)にて】



【図-1 谷中七福神巡りコース】

参加者13名の中には、山根和也(会員No.39)が参加してくれて、久しぶりのウォーキング参加でありました。山根さんと言えば、「やまねこ」さんの愛称で皆さんから慕われ、今回もスケッチ絵を数枚描いてくれました。修性院には「ひぐらしの布袋尊」が祀ってありますが、寺の壁面のスケッチ絵は図-3です。



【図-2 谷中七福神御朱印】



【図-3 ひぐらしの布袋尊】



途中、皆が知っている『谷中ぎんざ』を通りましたが、夕やけどだんだんの前で皆で集合写真を撮りました。



【図-4 谷中ぎんざ】



途中の天王寺（毘沙門天）で二班に分かれ、最終の不忍池弁天堂に完歩したメンバーは8名でありました。



【図-7 不忍池弁天堂（弁財天）完歩メンバー】

上野公園の西郷隆盛像の前で再び全員集合し、最後は『四季彩別邸』にて盛り上がり解散しました。



【図-5 夕やけどだんだん前にて】



【図-8 上野の森 西郷像前 全員集合】



【図-6 谷中ぎんざの名物】



【図-9 懇親会（上野 四季彩別館）】



山口七夕会親睦ゴルフ「第9回八木重二郎杯」

利重 尚義 (会員No.367)

山口七夕会親睦ゴルフ「第9回八木重二郎杯」が次の通り開催されました。

- 日時:令和6年4月25日(木) 9:03 スタート
- 場所:オリムピックナショナルGC EAST (旧エーデルワイスGC)  
埼玉県 入間郡毛呂山町阿諏訪 154 (関越自動車道-坂戸西 15km 以内 )  
開場 平成元年 8月1日 18ホール 6,000ヤード PAR 72

●参加者:

八木 重二郎	大枝 幹夫	藤井 謙志
武内 浩	板井川 浩	西村 弘文
利重 尚義	杉川 明	岡本 達也

朝方、関越自動車道の川越 IC 手前で交通事故があり渋滞、大幅遅延で到着しました。予定通りのスタートが危ぶまれましたが、何とか全員揃いスタートする事ができました。残念ながら、スタート前の記念写真を撮影する時間はとれませんでした。

毎回参加頂いた梅田圭良(86 才)さんの突然の訃報が届き驚きと追悼ゴルフとなりました。

天候は快晴ではないものの、風を意識することも無くまずはゴルフ日和でした。コースは、アップダウンの有る丘陵コース。コース内には池に囲まれたグリーンや広大なサンド・バンカーなど息もつかせぬハザード群やポットバンカーが巧みに配置されていました。所としてあるコース境の岩々のなかには、本物と疑いようの無い人造の岩があります。ボールが当たると「ボコッ」と音がします。グリーンは比較的広いけれどその分傾斜も有り難しい。初めてのコースの方々もいらっしゃいましたが、それぞれ楽しまれ、再チャレンジを 期する方もいらっしゃることでしょう。

プレー終了後一風呂浴びてパーティールームに集合。帰路の道路事情等を勘案して短時間の懇親会と成績(ダブルペリア)発表です。優勝は前回に続いて武内浩さんでした。

3 回も連続優勝させていただき本当にありがとうございました。隠しホールの関係でこのようになったと思っています(実力ではない)。まだまだゴルフは続けてやっていきたいと思っています。若い人たちも参加され 4 組くらいのコンペになるといいですね。私は、まだ会社経営をしており多忙ですがゴルフは息抜きになります。今後ともよろしく願いいたします。  
2024.5 武内浩

今回は、若手参加を期待してプレイフィ어의碑学的安いコースとしました。八木前会長のご支援により女性特別賞も用意されており、奮っての参加をお誘いしたいものです。皆様、老いも若きも参加を募り和気あい々ゴルフを楽しみ元気で行きましょう。



【優勝武内さん】



【全員写真】

梅田圭良さんを偲んで

利重 尚義 (会員No.367)

あまりに突然の訃報でした。

2024年4月25日、八木重二郎杯ゴルフコンペ会場に向かう車中で八木前会長から梅田圭良さん(86才・会員No.296)が昨日お亡くなりになったとのお話がありました。

思わず、別の方ではないかと思うほど突然で驚きました。

前会長も速報で事実のみ、詳細は不明との事でした。

藤井さんも、数日前このコンペのご案内をした時は元気な様子だったと語っていました。

皆様もご承知の通り大変お元気で各方面で種々活躍されていました。

(山高⇒東大⇒富士製鉄・新日鉄⇒防長倶楽部等々)

八木重二郎杯にも欠かさず出席頂き、第3回大会は見事優勝されました。

レギュラーティーから6,008ヤード。Par72、ネット75でした。

打球は若い者顔負けの勢いでした。

流石、往年の国体選手の面目躍如です。

前回の第8回大会は、前日他のゴルフ場でプレー後宿泊して翌日の参加でした。

私は、梅田さんの山高7期後輩ですが山口七夕会で初めてお見知りおき頂きました。

それにも拘わらず、昨年6月には栃木県「那須小川ゴルフクラブ」で宿泊2日連続ゴルフに参加頂きました。今年も計画する矢先でした。

奥様を亡くされた後もお自宅で一人暮らし、日常生活に留意され心身とも健康に何事にも積極的に取り組まれる姿は深く記憶に残ります。

同日午後「パソコンに向かった状態で亡くなられていた」との知らせがありました。

今となっては、苦しみは少なかっただろうと安堵し、最後まで一人暮らしを続けられた矜持に敬意を表し、ご冥福をお祈り致します。

合掌

令和6年4月25日

梅田さん→



【令和5年4月28日 第7回八木重二郎杯】

山口七夕会ふるさと山口本部 酎祭「講演会・交流会」

ふるさと山口本部日本酒部会長 嘉瀬 修（会員No.608）

令和6年3月2日（土）18時から、湯田温泉「セントコア山口」様で、講演会、交流会が104名と、過去最高の参加人数で開催された。

講演会に先立ち、能登半島地震に対して参加者全員で黙祷で始まる。

申神本部長から、「世界に向けた山口市の為に七夕会から…」と挨拶。伊藤市長からは、NYタイムズの2024年に行くべき場所に山口市選出について、山口市の取組についても前向きなお話をされ、山口七夕会もその為の尽力にも期待しますとご挨拶をいただきました。



【市長・申神本部長】 【ドレスコード:和服】

今回はゲストとして NPO 法人スマイルクラブ主催の大会で山口へ台湾高雄市からパラバトベスト4選手を含む総勢10名、他日本代表（東京パラリンピック）小倉選手ら数名山口市へ！。

スマイルクラブでは、将来山口市でアジア大会開催の足がかりとしたいそうです。



【スマイルカップ(立位、車椅子の部)@維新公園】

『19時より鏡割り』

伊藤市長、申神本部長、入江議長、福田先生、秋貞講師 による鏡開き、山口市議会議長により乾杯でスタート。



【鏡開き】 【乾杯】

『余興①：利き酒コンテスト』

竹内酒造場 酒米（穀良都）で、きき酒コンテスト開催（特別純米酒、純米生原酒、普通酒）なんと、きき酒師3名を退け伊藤市長優勝 NY タイムズが選ぶ場所の市長は、すごいですね！



【利き酒コンテスト出場者用予習ブース】



【利き酒コンテスト出場者は回答を記入】



【地酒】



『余興②：じゃんけん大会』

賞品の御提供をありがとうございます。

- ・旭水産様（車海老）
- ・竹内酒造場様（きき酒セット）酒粕
- ・ラッキーマンボウ様（からすみ）
- ・セントコア山口様（入浴セット）
- ・LAWAKU 様（チョコっと）
- ・西田珈琲様（NY52/3☕珈琲）
- ・徳地地域の皆様（徳地セット）
- ・ヤスミン様（ハーブティ）
- ・関和貴様（山口市阿東 田楽米）

- ・チュ-コレ様（KORI）
- ・田原屋（外郎セット）
- ・七夕会（湯田温泉セット）

『余興③：総踊り』

「成友很酷（チェンロンヘンクー）」を踊る。  
チェンロンヘンクーは、日本語で「ジャッキー  
チェンカッコイイ」という意味

『ふるさとの風の合唱（山口市民の歌）』  
松西副本部長の中締め



【市議会議長も百合子先生も総踊り】



【申神本部長も総踊り】



【総踊り】



【新時代の長州ファイブ】



【松西副本部長】



【中締め後に記念撮影】

【酎祭講師の寄稿】 「山口のお酒は 旨い魚と小啣で呑む」

秋貞 憲治 (会員No.782)

令和5年度山口七夕会ふるさと山口本部「酎祭」で講演された秋貞憲治さんの演題:「山口のお酒は 旨い魚と小話で呑む」の講演要旨です。

The New York Times「52 Places to Go in 2024」の中で、山口市がパリに次ぐ3番目の都市とされたことに対し、大方の県民は「なんでじゃろ?」との反応を示しました。

しかし、視点を変えて探せば、山口県には世界一のものがあるとも考えます。そのひとつは、日本酒と魚介類のペアであり、私は、「山口のお酒と魚は、“馬場と猪木の最強タッグ ダアァー!!”」と訴えてきました。

というのも、酒と魚が両立している地域が国内に見当たらないのです。例えば、酒処の新潟県の代表魚(県魚)は“錦鯉”で酒には不向き。逆に水揚げトップの北海道の日本酒は、??です。

これに対し、山口のお酒は大躍進し、生産量は全国6位。国内トップの酒が出現し、世界コンクール受賞酒も多数となり、輸出金額は日本一です。一方、魚介類は、県魚“ふく”をはじめ、県産魚だけで一献できます。

日本酒は、米を原料に醸造に技術を要し、海外にはないので、山口県タッグは、世界一という結論です。

それに、大内文化や近代日本を創ってきた先人など、“小啣”として語れるネタも豊富です。

このため、酎祭の講演内訳をA山口のお酒と魚 B クジラ C 海がおかしいぞ!の三テーマに小分けし、小啣も用意。付録として①世界のコンクール受賞酒 ②カラオケの地産地唱を付けました。

付録②では、星野 哲郎氏以外にも、富海海岸がモデルの南 沙織“17才”や“真赤な太陽”“天城越え”“for you…”など県内の作詞・作曲家による名曲を紹介。これらをBGMにした七夕会開催をリクエストします。

さて、今回の酎祭では、高校同級生の大濱君※が市内で開催する大会に、台湾から車イスバドミントン選手団10人が初来日することから、交流会に参加させていただきました。

※阿知須出身・七夕会員。NPO法人スマイルクラブ(柏市)

このため、知人にも酎祭への参加をお願いし、選手団の交流会参加費の寄付も頂戴しました。

講演は、お伝えすることが多くて、テーマAだけで時間切れになりましたが、機会をいただければ残りをお話ししたいと思います。

次ページは、当日の講演内容の一部です。お酒の歓談の際の小啣になれば、幸せます。

スマイルクラブでは、来年3月にアリーナにて日本・台湾・韓国のパラバドミントン・ミニアジア大会を予定しています。障がい者の受入体制など山口市には様々な課題はありますが、東京パラリンピックで正式種目に採用されたパラバドを山口市から世界に広げる試みです。S/JリーグのUBE、ACT SAIKYOのほか、柳井商工高校などの山口県のバドミントン資源を活かし、視点を変えて、山口市がパラバド世界一の街となるために、皆様のご支援とご協力をお願いする次第です。

付録②

● 山口県の作詞・作曲家たち

### カラオケの地産地唱

★ NHK紅白歌合戦 過去50年のトリ・大トリ曲

★ 防府市

作詞：有馬 美恵子(防府市)

それ行けカーブ〜若き鯉たち〜

1丁字の作詞モデル 防府市 富海海岸

その他の作詞曲

布施 明 積木の部屋  
金井 克子 他人の関係  
小川 知子 初恋の人  
伊藤 ゆかり 小指の思い出

作曲：鈴木 淳(防府市)

作曲：悠木 圭子(防府市)

★ その他の防府市

作詞家 伊藤 歩 近藤 真彦 感か者  
作曲家 大村 隆雄 同期の桜 鹿と鈴鹿

★ そのほかの地域

ジャンル	作	詞
ジャンル	星野 哲郎	
出身地	山口県 防府市	
美空 ひばり	みだれ髪	
都 はるみ	アッコ様は恋の花	
水前寺 清子	三百六十五夜のマーチ	
ゴールデンハープ	黄色いザクランボ	
北島 三郎	風雪ながれ旅	
魚羽 一郎	兄弟船	
ロス・プリキス	たそがれの銀座	
滝美 清	男はつらいよ	
小林 旭	雲の舟で遊んでいます	
尾形大作	吉田船娘	
小林 幸子	桂 小五郎 雲雀	
瀬川 隆子	長崎の涙はせむぎ草	
ジャンル	吉岡 治	
出身地	山口県 防府市	
美空 ひばり	真赤な太陽	
都 はるみ	天城越え	
石川 さゆり	千宵かほる 真夜中のギター	
瀬川 隆子	命くれな	
天川 栄策	さざんかの宿	
その 他	あちちのチャチャ	
ジャンル	大津 あきら	
出身地	山口県 防府市	
高橋 貞梨子	for you...	
中村 雅俊	心の色	
津波 敏	約束	
ジャンル	悠木 圭子	
出身地	山口県 防府市	
山本 譲二(等 五郎)		
山本 譲二	閉門海峡	
ゆるぎろく	閉門海峡	
泉の涙にからんば	サンガ裏れる	
飛と折るで	じいさん	
日に流るる	みぞれの雪	
ジャンル	まど・みちお	
出身地	山口県 防府市	
やきさんゆうひん	やうさん	
一年生になったら	ふしぎなポケット	
ジャンル	ちひろ	
出身地	山口県 防府市	
轟と小島と鈴と	ちひろ	
山口県防府市		



### 山口のお酒と魚(抜粋)

おことわり：字数の都合上、敬称を省略しております

#### 1 日本酒と魚の関係

魚類を“さかな”とも呼び始めたのは、江戸時代以降のこと

※日本酒に最適の惣菜“酒菜(さけな)”が語源。以前は“うお”(例えば、魚山場)  
※日本の食文化と魚は密接な関係。例えば、真魚板(まな板)

#### 2 やまぐちのお酒 遂に日本一！ 純米大吟醸“大嶺2粒”【大嶺酒造】SAKE COMPETITION 2023

□出荷量 全国6位 ※福島県7位 広島県12位 □輸出金額 1位 輸出数量 3位  
□首脳会談 東洋美人 壱番纏【プーチン大統領】 獺祭 磨き その先へ【オバマ大統領】  
小咄 長期熟成酒「2015年産 純米大吟醸“夢雀”」 976,800円/750ml【堀江酒場】

#### 3 酒粕と魚のコラボ


ほろ酔いシリーズ サバ※超美味 ウmazラハギ【阿武の鶴酒造・八千代酒造】 アユ【金光酒造】  
笠戸のさば 金分銅酒造(笠戸島レモンもプラス) 吟醸海老 堀江酒場

#### 4 お魚全国ランキング 1位 アマダイ、ノドグロ 2位 サザエ ※語源：ささえ(小(こ)の(こ)家(いえ))

3位 ナマコ、チダイ・キダイ 4位 イサキ 6位 アナゴ 7位 アワビ  
※漁港別トップ：アンコウ水揚げ(下関漁港)、フク取扱量(南風泊市場)

#### 5 水産加工発祥の地

□「ニッスイ」・ 田村 市郎(萩市)が下関で創立。岡司 浩助(山口中学10期)らとトロール漁業開始  
(旧 日本水産)・ 鮎川 義介(山口中学3期、日産自動車創業)の縁などにより戸畑に移転

(参考) マルハ ・ 中部 幾次郎が明石林崎漁港で家業継承 当時の屋号「林兼」。商標  
・ 1904年下関に拠点移転 1936年大洋捕鯨(株)設立

山口県内の 大洋エーアンドエフ 油谷湾でマグロ養殖。仙崎湾にも拡大予定  
マルハ 下関漁業 沖合底びき網漁業(見島沖〜対馬。アンコウ・ノドグロ等を漁獲  
グループ 下関工場 竹輪製造  
創業者同じ 林兼産業(下関) マルハソーセージ製造。宮崎県では、霧島黒豚ブランドも

□辛子明太子、アルコール漬けウニ(下関市) □焼き抜き蒲鉾

#### 6 世界のえび養殖発祥の地・秋 【世界初】藤永 元作博士が、人工養殖に成功 ※卵から孵化させる

・ 1963年 秋穂の花香塩田跡地に“瀬戸内海水産開発(株)”設立  
・ 藤一永(リャン・イーチュー。藤永博士弟子、台湾出身)が、ブラックタイガーの人工飼育に成功 ⇒ 世界に拡大

#### 7 健康のために魚を食べよう 学習機能向上、痴呆症予防、コレステロール低下、血栓防止ほか

鰺 アジ大好き！ 山口市 消費支出額 全国1位 購入量2位 (令和2〜4年の平均)  
小咄 味が良いので“アジ”と呼ぶ。“おいしさに参りました”から魚偏に降参の“参”  
(阿知須の語源は、アジとは無関係。アジガモ(古名。トモエガモ)が海の洲に群れている様から)

鯖 小鯖の地名は、サバにあり！ かつて周防灘は、国内屈指のサバ漁場  
国分寺は、娑婆※に建てる ⇒ 娑婆が“佐波”(さば)に変化 ⇒ 小佐波(こさば)を小鯖に置き換え  
※“しゃば”。人の多く住んでいる所。例えば、娑婆に出る=出獄

□酒米“穀良都”※は、伊藤 音一(小鯖)が系統選抜・育成 ※国内・朝鮮半島で広範囲に栽培

戦中・小戦後の県民 ・ 国道262号小鯖付近は人間爆弾“桜花”飛行場 ※桜花発案者：太田 正一少尉(上関町)  
・ 原爆目標選定委員会(米陸軍)での研究対象地域に、山口市(全国17箇所(広島・下関・小倉・長崎なども含む))  
・ 新憲法制定をめぐる人  
◇ 河村 又介(佐山)：憲法問題調査委員会(松本 丞治委員長)委員。初代最高裁判所判事  
◇ 日本共産党※ 野坂 参三(萩市) ※憲法9条に反対した唯一の政党(他に、天皇条項)  
憲法案：自衛戦争をも放棄 ⇔ 民族の独立を危うくする。侵略戦争の放棄とすべき  
□民 ・ ペリリュー島残留兵34人の救出：澄川 道男(道場門前)

#### 8 イカ・タコ対決

イカ □王様：アオリイカ、女王：ケンサキイカ(まいか) □夏のケンサキ、冬のヤリイカ

□呼子名物のイカは、かなりの量が“山口いか街道”(下関〜旧田万川町)から搬送  
□コウイカは、別名“墨イカ”。ラテン語でセビア(かつては墨をインクや絵具に)  
小咄 イカサマの語源：イカ墨で書いた証文は、文字が退食(セビア色)して消えるため

タコ 語源：多股。“芋泥棒”：タコの異称【国語辞書】(他に、スイカ・大根・甲芋も畑で盗む)

小咄 スイカの中からタコが出てきた⇒タコ焼きのヒント、との噂も



## 「冬の徳佐を楽しむ会」

### ふるさと山口本部・楽農部会長 関 和貴（会員No.183）

山口七夕会ふるさと山口本部楽農部会の恒例行事、『冬の徳佐を楽しむ会』（別称：シシ鍋の会）の報告です。

楽農部会は農を知り、農業者の知恵を見習い伝承し、自然を満喫しようとする集まりです。山口市の阿東徳佐地域では米やリンゴ等の栽培が盛んです。私方の圃場を利用して田植え→田の草取り→稲刈りを行い七夕会の会員と地域の農業者との交流を行っております。

『冬の徳佐を楽しむ会』は収穫の慶びを共有する感謝祭の位置付けで実施しております。また阿東徳佐地域の冬の厳しさを少しでも体験していただきたくて、厳冬の時期に設定しました。

この会の前半部は講演会、後半部は懇親会の構成です。

最初に会員の山口ふるさと大使『ちひろ』さんのリードで山口市民の歌の斉唱から始まりました。

（講演会）

#### ●【徳佐の美味しい林檎のお話】

講師：友清光博氏

山口県でリンゴ栽培を始められて今年で70年。3代目の経営者の友清光博氏のリンゴ栽培の苦労や美味しいリンゴの味わい方についてのお話を伺いました。

リンゴを味わうときに生産者の努力や苦労にも感謝したいものですね。

#### ●【小児科医師が語る小児医療】

講師：山口赤十字病院の野中裕文医師

小児医療の健康学のお話をさせていただきました。このお話を聞きたくて阿東地域の方々が多数お越しになられておりました。私の知人は子供が孫を連れて帰って来た時には参考になると、農作業手帳にメモを取っておりました。山口赤十字病院の医師の方々の中山間地での講演に感謝いたします。今後も継続をお願いします。

#### ●【自然満喫型ゲストハウス】

講師：落合せい香氏

徳佐で生まれて、都会で就業して故郷に戻られた落合せい香氏。故郷の素晴らしさは、他所で生活して良く分かるようです。宿泊所のない徳佐地域にゲストハウスを開設されて、交流の拠点を作られております。徳佐の自然を満喫しにお越しくください。なお、ここのお米は最高ですよ。美味しい。味わい深いものがあります。

#### ●【NY タイムズが取り上げた行くべき旅行先山口】

講師：洞春寺の深野住職

山口市の魅力を愉快地語っていただきました。

（懇親交流会）

#### ●【恒例の『シシ鍋』】

今年はシシカレーも登場しました。

お酒は防府市の竹内酒造の『錦世界』がメインでした。このお酒の酒米の銘柄は「穀良都」、栽培地は徳佐。栽培者は昨年講演していただいた村田仲平氏。

仕込みには七夕会日本酒部会長の嘉瀬さんが気合いを入れて仕込んだと聞いております。会に相応しい美酒でした。

#### ●【音楽演奏】

今年の音楽演奏はピアノ演奏が中心でした。勿論、申神本部長の酒気帯び名演奏もあったことを申し添えておきます。

#### ●【抽選会】

抽選会で徳佐米・お酒・リンゴジュース・猪肉等の徳佐に相応しい豪華景品があたりました。景品を快く提供いただいた皆様に御礼申し上げます。

●【ふるさとの風の斉唱】

最後に『ちひろ』さんのリードで「ふるさとの風（山口市民の歌）」の斉唱でお開きとなりました。

●【二次会】

閉会后、会場の阿東交流センターから山口市内への送迎バスの中でも二次会が繰り広げられたと思います。寒い徳佐の温かい一日を楽しんでいただけたと思います。

●【お礼】

この日の参加者は山口市内方面から 38 名、阿東地区からは 23 名でした。

なお、使用した猪肉は 22 kg、ハクサイは 18 玉。完食でした。会の趣旨を理解して快く生産者価格で提供していただいた農家の皆様に感謝いたします。

併せて、献立の打ち合わせから調理をしていただいた婦人会の有志の皆様にお礼申し上げます。



【懇親交流会】



【シン鍋】



【音楽演奏：申神本部長による酒気帯び演奏】



【楽農部会長：関和貴挨拶】



【集合写真】



【講演：自然満喫型ゲストハウス（落合氏）】



【送迎バス：イノシシ号】



【リレーコラム】～地酒「わかむすめ」を育てる～



新谷 文子（会員No.757）

酒蔵へ嫁いでちょうど20年。結婚後、私の心を占拠しているのは、山口市徳地の地酒「わかむすめ」を育てるということ。あまりに熱心になり過ぎて、とうとう新谷家の孫娘に間違えられるようになりました。私は嫁で、現在は新谷酒造の杜氏を務めております新谷文子です。

新谷酒造は昭和2年に旧佐波郡徳地町で創業し、間もなく100年を迎える酒蔵です。三代目、新谷義直は二代目の孫にあたり、跡継ぎのなかった蔵を引き継ぎました。徳地の地酒「和可娘（わかむすめ）」の名で地元の皆様にご愛顧いただき、最盛期は現在の生産量のおよそ5倍が、全て地元で消費されていたそうです。古来より一級河川「佐波川」の恩恵を受けて稲作もさかんで、かつては徳地の小さな町に5軒以上もの酒蔵があったと言われていました。しかしながら時代の変遷と共に、新谷酒造は残された最後の一軒となりました。平成の大合併により徳地町は山口市となりましたが、自然豊かなこの地は超軟水のやわらかな水が豊富で、昔と変わらず「女酒」と言われる地酒「わかむすめ」を醸し続けています。「女酒」と表現されるのは水が軟水のため、ゆったりと穏やかに発酵が進み、口当たりの滑らかな酒に仕上がるためです。漂泊の俳人「種田山頭火」が新谷酒造を訪れ、あまりの水の美味しさに数日間この地へ滞在していたという話しは、地元では有名な話しです。そんな場所で酒造りができるなんて、私たちはとても幸運でした。しかしながら酒類販売免許の自由化や焼酎ブーム、若者のアルコール離れ、次々とやって来る時代の波に呑み込まれ、経営は苦しくなる一方。全国の酒蔵が次々と姿を消して行き、この20年でその半数が姿を消したとも言われています。私たちは歴史と伝統を背に、揺らぐ心を落ち着かせながらこの苦難を耐える道を選び、そして革新を遂げることを決意したのでした。夫婦ふたりでの酒造りの始まりです。私が製造に従事するようになり、日本酒を知れば知るほど感じていることは、日本酒は「造る」よりも「醸す」よりも「育てる」という言葉が一番しっくり来るのではないかとことです。日本酒は「麹菌」と「酵母」のふたつの微生物により「並行複発酵」と呼ばれる複雑な発酵過程をたどってできるもので、世界に類を見ない高度な発酵技術と言われています。私たちが行っているのは、この微生物たちが各発酵過

程で十分な働きをしてくれるよう過ぎしやすく、時にはわざと厳しく過ぎにくくするなどして、環境を整えて見守るという仕事です。端々で子育てに似ているなど感じます。そして日本酒は製品になった後もしっかりとした管理で、搾り立てのフレッシュな味わいから、時を経て徐々にまろやかなる味わいの変化も楽しめます。味わいを「育てる」とも言えます。そしてもうひとつの大事な「育てる」は、地酒「わかむすめ」を全国、世界に羽ばたかせるよう育てていくことです。どの「育てる」も一筋縄ではいかないことばかりですが、この悠々とした自然豊かな風土を「わかむすめ」に詰め込み、多くの皆様に素敵な町、山口市徳地を知っていただきたいと思います。これからも私たちは「雨垂れ石を穿つ」の精神で研鑽を積んで参ります。



【一級河川「佐波川」が流れる蔵周辺】





## 山口七夕会「こども会員」から次世代会員育成の試み

山口七夕ふるさと大使 山根 洋平（会員No.384）

山口市出身、平川幼稚園から平川小に進学するも1ヶ月だけ通い、母方の実家の二世帯住宅化に伴い転居し佐山小に転校、その後川西中から山高普通科109期卒、山口大学教育学部から1年間ドイツ留学を挟みつつ、山口大学大学院人文科学研究科修了の筋金入りの山口市民でした山根洋平と申します。大学院修了後は、就職を機に千葉県市川市、東京都世田谷区、千葉県船橋市と会社の寮や舎宅を転々とし、自家を取得して令和元年12月から現在まで東京都調布市民として生活しています。

山口七夕会とのご縁は、山口在住時に山口日独協会の活動で知り合った児玉秀文さんから、東京に出るならこういう会があるから入っておくといよいよご紹介を受け入会し、上京後は相山俊哉さんにあれこれ教えていただきながら、細々と会員を続けていましたところ、令和元年に山口七夕ふるさと大使というものを創設するので大使としてなってみませんかとお声かけいただき、制度創設当初より山口七夕ふるさと大使（任期5年、当時最年少の大使）を拝命し、昨年令和5年8月に最初の更新（再任）の委嘱を受けました。

これまで大使の役目として何をやってきたかと言えば、ひたすらふるさと納税での山口市の宣伝ばかりで、かつてA4横三つ折りリーフレットで大内塗の箸など数点の返礼品紹介がされていたふるさと納税黎明期から、山口市の産品がカタログギフト並に充実したラインナップとなっている現在に至るまで、あちこち出かけた機会でもたかと言われるほど山口市をアピールしてきたので、山口とドイツの話は山根に聞けと言われるくらいに職場で定着してきたところではあります。

自己紹介はこれくらいにして話題を本題に移します。山口七夕会も会員構成の高齢化が進んでいく中、新たな会員の確保、特に次世代の育成が急務となっております。七夕会で何ができるか色々考えてはいい案を思いつくことなく、総会に4歳になる我が子と一緒に参加したところ、参加者の中での最年少がうちの子と相成りました。この子連れで参加したのが意外といいアイデアでして、会員区分に「こども会員」を作ること、まさに次世代会員の確保と育成ということに資する取り組みとなっていくのではないかと思いつきました。

よく「老壮青」ということで3世代一体となった取り組みということを決まり文句のように聞きますが、これに「少幼生」も加えたまさに全世代

型の会員構成としていくことが、これからの運営では重要になってくると考えます。早い時期から会の活動に参加することで、親や保育園・幼稚園・学校の先生以外の大人との関わりを持つことになり、こうした人との関わりの中で社会性を育むとともに、豊かな人格形成に資するという具合で、子どもの発達にも良い効果が期待されます。また会の運営としても、郷土を想うヨコのつながりを維持しながら、子を持つ親同士の相互の連帯を強化できるのではないかと考えますので、子どもを活動の中に組み込む取り組みは、会員と会の運営の双方にとって有益であると言えます。

時代の変化に応じて、新たな会員構成、新たな活動のあり方を模索していき、子どもも一緒に参加しやすい山口七夕会としていながら、会の活動を引き継いでいけるよう微力ながら支えていきたいと思っております。「こども会員」の発展を通じた会の活性化に向けた取り組みについて、山口七夕会会員の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



## 神田京子大独演会 金子みすゞ伝 明るい方へ

岡崎 龍也 (会員No.702)

2024年1月25日(木) 山口市在住の講談師、神田京子さんの大独演会「金子みすゞ伝 明るいほうへ」が有楽町よみうりホールで開催されました。

当日、読売会館7階よみうりホール会場の前は、金子みすゞの資料の展示コーナーが設置され、テレビ局など各方面からの花輪でいっぱい、開演前からは熱気につつまれていました。目標1000人を数日前に達成、チケットは完売です。

いよいよ開演、神田京子さんのご挨拶では、ご夫婦で2020年より住まわれている山口市についても、ニューヨークタイムズ紙「2024年に行くべき52か所」に選ばれた話題などにも触れ、おもしろく紹介されました。

神田さんは「憂さ晴らしや元気づけに力を貸すだけでなく、寄り添ったり、慰めたり、慰めたり、「そうだよ」と一緒に相槌を打つことの出来る講談がもっとあっていい。」と考え新作講談に取り組んでいます。「金子みすゞ伝」はコロナ禍で講談の活動ができない時期に、長門市「金子みすゞ記念館」にも足を運び研究を深め作成しました。

神田京子さんのご挨拶のあとは、大学の後輩、「笑点」大喜利メンバーの春風亭一之輔さんが登場、神田さんとのエピソード交え「初天神」を演じていただきました。会場は明るく楽しい雰囲気になりました。

京子さん、一之輔さんの軽快なトークコーナーに続いて、フレーベル少年合唱団の合唱。みすゞの詩「こよみと時計」「桃」「私と小鳥と鈴と」が、美しい澄んだ声が会場に響きわたります。

いよいよ、「金子みすゞ伝」の始まりです。長門市仙崎はくじら漁で有名な漁村、少女時代を仙崎で過ごした、みすゞは母の都合で当時大都会下関の「上山文栄堂」書店に、そこで童謡詩人として活動を始めます。雑誌「童話」などに投稿、西條八十にも認められ活躍します。上山家に養子に入っていた正祐は、まさかみすゞが実の姉だとは知らず、恋破れて東京へ。

みすゞは書店の番頭と結婚、娘も生まれますが、創作に理解のない夫との離婚・・・そして悲劇が起こります。会場は感動の拍手に包まれました。

みすゞの詩を織り込みながら、神田さんのテンポのよい語りは、悲劇を語りながらも、その中に希望を感じさせます。一方みすゞの台詞を話すときは、まるで声優のような声色、神田さんの才能を

感じました。

フィナーレでは、金子みすゞ記念館館長で童謡詩人の矢崎節夫さんが登場、みすゞの実弟上山雅輔(正祐)さんから、三冊の詩集を受け取り、やがて世に知られるようになった不思議な縁をお話しされました。

最後に神田さんの新作の発表がありました。次回の作品はなんとあの渋沢栄一です。近代資本主義の父とされる渋沢は、500の企業を起こしただけでなく、600の慈善事業を行った人でもありました。みすゞと同じように「目に見えないものがわかる」人物、ここに神田さんがスポットをあてて新作に取り組まれます。金子みすゞと同じように小規模の公演会からはじめ、武道館で(冗談といわれましたが)公演会をしたいと夢を語られました。是非応援したいですね。





ストリートピアノとのコラボイベント第2回目

本部・本部長代行 西村 弘文（会員No.464）

令和6年2月12日、東京都北区豊島にある「ココキタ」にて第2回目となるストリートピアノのイベントを行いました。

ココキタとは「文化の創造と人々の交流を育むまち」というコンセプトのもと、旧豊島北中学校校舎を改修して誕生した、区民の文化芸術活動を応援する施設で、音楽やダンス、絵画や彫刻など様々な創作活動が行えるスタジオやアトリエが整備されています。年に複数回、ここで活動するアーティストを中心とした発表イベント「ココキタまつり」が行われており、一昨年7月に引き続き山口七夕会はストリートピアノの会に協賛して参加しました。

ストリートピアノの会は、大学で教鞭をとる武藤さんが中心となって作った同好会ですが、音楽仲間である関幹事長も参加しています。ピアノを弾いてくれた方の中から、先着30名様に山口の銘品をプレゼントするコンセプトは前回と同じですが、前回提供した山口銘菓「大内もなたん」から、今回は「大内塗の長寿箸」にグレードアップしています。

当日は2月とは思えないほど暖かい天気となり、「ココキタまつり」には多くの来場者がありました。24カ所に分かれた会場はどこも盛況でしたが、ストピ会場にも多くの方が訪れ、演奏された曲数は77曲を数えました。ここには、ご夫妻で来られた秋草会長の演奏も含まれています。中にはアコーディオンやサックスを持参して参加された常連さんもあり、演奏の巧拙を問わず銘々がお気に入りの曲を弾いて楽しんでいました。中でも目を惹いたのが、会報49号（令和4年9月）の記事でも紹介した2人の母子でした。前回はお母さんのピアノ演奏を横で嬉しそうに聞いていた坊やが、今回は楽しそうに連弾していて、和やかな雰囲気を一層高めていました。

イベントの企画・運営はストリートピアノの会の方々と関幹事長が主体となって進められましたが、当日には前述の秋草会長の他、藤井本部長、西村本部長代行、岡本副本部長、岡崎幹事、田村幹事が参加して運営を支援しました。会場には山口七夕会の旗を配置しましたが、イベントを通じて山口七夕会を広報する良い機会になったと思います。



秋草会長の演奏→



こんな雰囲気→



お母さんと連弾→





## オーセンティック Authentic な山口と私

森野 尚子（会員No.869）（新会員）

☆ 世界3位 ニューヨークタイムズで世界行くべき場所として3位に選ばれた山口。世界で3位にランキングされる程の魅力があるまちとして世界に発信されたことは、長門市民の私にとっても大きな喜びであり驚きでした。けれど、「なぜ？」という思いは、わたしの周囲だけでなく、多くの方が感じられた疑問なのではないでしょうか。

5月にNHKで放送された“Y スペ！”では、オーセンティック（本当の）というキーワードで山口の魅力が紹介されていました。“京都の祇園などは、観光客のために設計されていて、本当の住民の生活は観られない。”ということもNYタイムズに山口を推薦したクレイグ・モドさんが語っていました。やまぐちは、人々の本当の暮らし、地域や人々に根付く本当の伝統、日本人としての本当の心に触れられるまちだという話に、「そういうことかぁ」と心に落ちるところがありました。番組では、その一例として道場門前の食器等を売るお店が紹介されていました。お土産物ではなく、私達が実際に使っている蓋つきのお椀～日本人の暮らしの中で長年使われ続けた食器です。そこでは、伝統的なものに、博物館と違って、実際に手に取って試してみることができ、店主にその使い方を尋ねることもできます。また、アーケードのついた商店街自体は、日本独自のもので歩いていろいろな店に回れることが素晴らしいのだそうです。私たちにとって普通に昔からあるもので、その良さには気づけなかったことに気づきました。

☆オーセンティックなわたし？

私は3年前に小学校教諭として定年を迎え、現在は再任用教員として、週の半分を小学校で働いています。ブラックな仕事と言われながらも子供達の成長を間近に感じることができる素晴らしい仕事だと思っています。それも、本当の私。もうひとつのオーセンティックなわたしはミュージカルにぞっこんのわたしです。宮野にあるリルレイダンススタジオでミュージカルのレッスンを受け、吉田松陰を題材にしたミュージカル「SHOWIN～若き志士たち～」に出演したことが私とミュージカルを切っても切り離せない関係にしてくれました。

山口市民会館での公演の温かい拍手は忘れられません。現在は観賞一方ですが、博多、東京、大阪、兵庫と全国を飛び回って大好きな推し俳優のミュージカルを余さず鑑賞しています。ミュージカルに出演した経験が、より広い角度からステージを楽しむことに繋がっていると思います。ミュージカルは、オーセンティックなわたしの多くを占めています。

☆出会いと発見の“山口七夕会”

5月25日初めて七夕会に参加しました。「音楽とパエリアの夕べ」本当に素敵な音楽祭でした。そこで強く感じたのは、七夕会に集う人々の熱い山口愛！そして、素晴らしい才能が集う場所ということでした。県庁グリーンクラブの素晴らしいハーモニー、おいしいパエリアや高森牛、様々なオーードブルなどをいただきながら見聞きしたプレゼンや演奏、そして人々との出会い。とりわけ、十数年間ずっと聞き続けたシンガーソングライターのちひろさんと、お話ができたことに感激しました。山口市と七夕会～まだまだたくさんの魅力を発見できそうな予感でいっぱいです！



【ちひろさんを囲んで@音楽祭「輪-RIN-」】

< 新入会員(個人会員番号・氏名)の皆さん >

《令和6年1月号掲載以降の新入会員》 ※氏名、住所は公開会員名簿への掲載承諾者のみ

会員番号	氏名	住所
863	河本 志朗	山口県山口市
864	福増 美和子	山口県宇部市
865	俵 真理	山口県宇部市
866	三戸 ひとみ	山口県美祢市
867	須原 誠	千葉県千葉市
868	伊藤 早苗	山口県美祢市
869	森野 尚子	山口県長門市

会員番号	氏名	住所
870	河村 実与子	神奈川県横浜市
871	前田 善男	山口県山口市
872	前田 まゆみ	山口県山口市
873	末永 光正	山口県山口市
874	津田 龍春	山口県山口市
875	柴田 和幸	東京都板橋区

令和6年6月20日現在の会員数：個人会員374 法人会員23

< 令和6年度山口七夕会“年次総会”のお知らせ >

- 日時：令和6年8月3日（土）10：30～14:30（受付会誌10：00）
- 場所：「インテリジェントロビー・ルコ」東京都新宿区揚場町 2-1 軽子坂MNビル 1F
- 内容：【Ⅰ】総会 10:30～12:00  
 【Ⅱ】講演会 12:00～12:45  
 講師：第26代気象庁長官 関田康雄氏  
 演題：『気象の予測と防災』  
 【Ⅲ】交流会 13:00～14:30
- 会費：6,000円（交流会に参加されない方及び学生の方は1,000円）  
 ※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

< 令和6年度山口七夕会ふるさと山口本部総会&“夏の講演・交流会”のお知らせ >

- 日時：令和6年8月10日（土）18：00～21:00
- 場所：セントコア山口（山口市湯田温泉3丁目2-7）
- 内容：【総会】18：00～18：15  
 【講演会】18:15～19:00  
 講師：神田京子（山口市に移住された講談師）  
 演題：『芸歴25周年！！「講談 渋沢栄一伝」を新一万円札にちなんで1万人に伝えるプロジェクト！！大進行中！神田京子の挑戦とは？！』  
 【交流会】懇親会 19：10～21：00
- 会費：7,000円（非会員は+500円）  
 ※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

## 〈山口市役所より〉 山口市ふるさと産品販売イベントのご案内

平素から、山口七夕会の皆様におかれましては、本市の産業振興に多大なる御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

山口市では、ふるさと産品を販売するイベントを日本橋と三軒茶屋で開催いたします。ぜひ、お越しください。



【山口市の選りすぐり！名産品フェア】  
日時:令和6年7月11日(木)・12日(金)  
会場:おいでませ山口館(日本橋)



【おいでませ山口県！PRU隊】  
日時:令和6年10月5日(土)・6日(日)  
会場:三軒茶屋ふれあい広場

## ふるさとやまぐち寄附金(ふるさと納税)のお知らせ

さて、皆様御承知のとおり、ふるさと納税制度につきましては、生まれ育ったふるさとや関わりの深い地域を応援したいという気持ちを寄附という形でまちづくりに貢献できる仕組みでございます。

昨年度、本市におきましては、山口七夕会の皆様をはじめ、全国各地の皆様から約5億8百万円の御寄附をいただきまして、本市の子育てや教育などの様々なまちづくりの取組に活用させていただいたところでございます。御寄附をいただきました皆様に改めて感謝とお礼を申し上げます。

本市のふるさと納税につきましては、御寄附をいただきました皆様方へお送りする返礼品として、「阿知須和牛」や「あいおえび」、「湯田温泉宿泊割引クーポン」など、現在、約500点以上の商品やサービスを取り揃えております。

寄附額：35,000円

阿知須和牛切り落とし肉 1kg



寄附額：23,000円

活き車海老 600g (12~18尾)

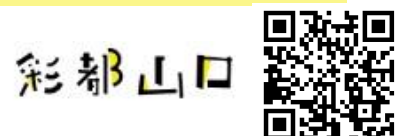


寄附額：53,000円

湯田温泉宿泊割引クーポン



その他のふるさと納税返礼品や寄附の方法につきましては右記QRコードから御確認いただけます。



今後も、ふるさと納税の取組を通じまして、ふるさと山口に熱いエールを送っていただきますようよろしくお願いいたします。

山口市商工振興部 ふるさと産業振興課  
ふるさと産品営業担当  
《tel》083-934-2812  
《E-mail》furu@city.yamaguchi.lg.jp



< 会報山口七夕会への投稿を募集します >

1. 大使の一言(「山口七夕ふるさと大使」の皆さんの自己紹介記事やメッセージ)
2. 私の一言(会員の皆さんの自己紹介記事やメッセージ)

★テーマの一例

- (1) 山口市に関する豆知識
- (2) 山口県外にある山口ゆかりのものや活動
- (3) 今、思っていること

★字数

1,200 字程度の文章と写真 2 枚程度を基準。紙面構成上、フォント、行間等を調整します。

★投稿締切

6月号(5月中旬)、9月号(8月中旬)、1月号(12月中旬)

★投稿提出先

下に電子データ(Word、形式)でお送りください。

会報山口七夕会編集長(庄 栄一郎): [ssho04281103@hi.enjoy.ne.jp](mailto:ssho04281103@hi.enjoy.ne.jp)

< 重要 > < 公開会員名簿への掲載承諾のお願い >

会員相互の交流促進や会の活性化に役立てばと、記載事項を限定した「公開会員名簿」を作成・発行しました。作成に当たっては、名簿への記載についての承諾を必要としておりますので、今後、趣旨に賛同していただける方は、記載を承諾する旨を下記まで連絡願います。「公開名簿で懐かしい名前を見つけて交流が再開した」といったことになればと考えています。

記

メールの場合: [seki@8011.jp](mailto:seki@8011.jp) (関 周 宛)

郵送の場合: 〒114-0034 北区上十条 3-3-16 関 周 宛

< 重要 > < メールアドレス登録のお願い >

2024年、山口七夕会はライブや各種イベント、ウェブ抽選会など「新しい企画」にどんどん取り組んでいきます。

新しい企画はメールを主用してご案内していきますので、メールアドレスの登録をお願いします。

現状、個人会員 378 名のうちでメールアドレスを登録されている方は 251 名ですが、その内の 37 名は送信不能ですので、既に登録されている方も確認のため再度登録をお願いします。

【登録方法】

●QRコードリーダー付きのスマートフォンから登録される方は、右のQRコードを読み込んでください。



●パソコンから登録される方は、本文にご自分のメールアドレスを入力して、「[seki@8011.jp](mailto:seki@8011.jp)」にメールを送信してください。

【事務局からのご案内】

- ◎転居されるご予定のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(ご連絡がないと会報 山口七夕会や市報等の資料が届かなくなってしまう)
- ◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(会員録の整理などの事務手続に必要となります)

★事務局(山口市企画経営課内)  
〒753-8650 山口市亀山町2番1号  
TEL 083-934-2746  
[kikaku@city.yamaguchi.lg.jp](mailto:kikaku@city.yamaguchi.lg.jp)

【編集後記】

会員の皆さん、新年度が始まり早3ヶ月、いかがお過ごしでしょうか。自分は3月末で山口県庁を役職定年。定年延長を1年して4月からは、萩の県の出先事務所で一担当として勤務しています。赴任先での挨拶では「アディショナルタイム1年。集中力を切らさず職務を遂行したい」、と。

ところがこの3ヶ月、想像以上の目の回る忙しさ。定年延長者が仕事を任せられ頼りにされているのは嬉しいのですが、やっぱり体力は落ちています。この調子だと後半は息切れし失速しそうです。

さて、6月号の寄稿文。やはりニューヨークタイムズ紙で山口市が「2024年に行くべき52か所の3番目」に取り上げられたことを書かれている方が多かったようです。

かくいう自分も4月7日(日)湯田温泉白狐まつり総踊りでは、総踊りの責任者として、「白狐まつりは山口市が令和6年度スタートして初のビックな祭、フラッグシップ祭。白狐まつり総踊りを沢山の市民で元気に踊り盛り上げ、山口のパワーを世界に発信し、ニューヨークタイムズ誌の評価が正しかったことを証明しよう」、と呼びかけました。『天気晴朗なれども波高。山口市の興廃、白狐まつり総踊りの成否にあり。踊り子一同一層奮励努力せよ』、と。

沢山の会員の方も述べられているように、ニューヨークタイムズ誌が取り上げてくれた令和6年度は、山口市の魅力を日本に世界に轟かせることができる千載一遇のチャンス。

山口市もこの一年色んな意欲的な取組をされるとは思いますが、山口七夕会としてもこの1年、山口市の更なる魅力発信に繋がる企画に取り組む必要があります。

そして何より大事なのは会員一人一人が、山口市の魅力発信に心掛けていく姿勢ではないでしょうか。

『天気晴朗なれども波高。山口市の興廃、令和6年度の取り組みにあり。山口七夕会会員一同一層奮励努力せよ』、山口七夕会会員一人一人が心にZ旗を掲げて。

室町時代に華開いた世界に誇るべき大内文化、令和6年度に昇華させ新時代の大内文化を華開かせましょう。

機関紙編集長(ふるさと山口本部事務局長) 庄 栄一郎



Z旗



湯田温泉白狐まつり総踊り